



# 住居スペースが宙に浮いたような インパクトある外観デザインを演出

構造計算をして敷地を掘り込み、駐車場上の建物ボリュームを決定  
リビング屋外に2m超の庇とデッキテラスを設け、西日の緩衝帯に

一級建築士：比嘉俊一さん

新築前の元々の地盤面は、LDKなどがある現在の1階です。所定の駐車スペースを確保するには、今回のようなピロティ的な建築形態にすることが最も自然であり、隣地に影響が出ないように配慮しながら、土地を接道面から約5.6m掘り込みました。

駐車場の上にせり出した建物のボリュームは、構造設計事務所と相談して決定しました。躯体を支える柱などは省略したほうが広々と使えて実用的である上に、見た目にもインパクトがあります。施工会社の方も現地調査の段階から入念にチェックを繰り返し、竣工後は「私たちにとつても非常にやりがいのある仕事だった」と言っていただけでした。

プランニング面では、建物全体を「筒」と見立てて西側前面道路に向けて大きく開口を取り、フレッシュな光と風を家の奥まで引き込むようなイメージでレイアウトを組み立てました。もちろん西面開口は西日の影響が懸念されますが、道路を挟んだ正面に背の高いオフィスビルがあり、しかも窓が少ない背面側だったため、日射遮蔽の面でもプライバシーの面でも過度な対策は不要と判断しました。リビ

ングから2m超張り出したデッキテラスは、頭上と両サイドをコンクリートですっぽりと覆い、直射日光の室内への侵入を防ぐ緩衝帯に充てています。

内外装は奥さまの要望をもとに、白を基調にコーディネート。壁はほとんど塗装で仕上げていますが、テレビ背面と階段にはモルタルのような風合いの左官仕上材「モールテックス」を施工しました。また全体的に単調にならないように、同じ白でも三分艶、艶なしで塗り分け、場所によって色のトーンを微妙に変えています。この他、フローリングには艶なしの無垢チーク材、家具や建具にはニヤトー材を使用。和室の床の間に柿渋和紙を用いて空間全体のアクセントにしたのは、前ページで紹介のあつた通りです。

LDKを軸にした生活スペースは空間の広がりや、水回りは回遊性をそれぞれ重視してプランニング。また引き渡し時に完璧には仕上げずに、住みながら手を加えられる「余白」を残しておきました。アプローチ階段脇の植栽スペースや敷地東面の庭が、今後どのように彩りを増していくのか楽しみです。



1. 西側前面道路から見た夜の外観。元々の地盤面は現在の1階。構造計算をした上で整地に取りかかり、駐車スペースを5.6mだけ掘り込みました 2. 木の温かみを感じる玄関。床はチーク材、建具はニヤトー材。正面の戸を開けると階段がインテリアのように目に飛び込んできます 3. 2階に子ども室を3室計画。そのうち一室は、子どもが自立した後は一つの部屋として使えるように可動間仕切りを設置しています 4. 隣地境界付近は余裕を設け、アプローチ階段の脇には植栽スペースを設けました

## 家づくりのヒント

建築設計事務所アトリエセグエ

浦添市西原4-33-1 TEL.090-8406-8504 <https://seguearchitects.jp>  
✉ [shiga@seguearchitects.jp](mailto:shiga@seguearchitects.jp)

### 床の段差を空間テクスチャーの一要素と捉え 閉じずにつなげて開放感を生かす

Hさん宅1階は、LDKと和室、デッキテラスがワンルーム的に連続した大空間を形成しています。このうち和室は小上がりのため、床の高低差により空間は分節されていますが、障子などは設けずオープンにつなげて、フロア全体の開放感を追求しました。設計した比嘉さんは「人が集まることが多いご家族。仕切りのない和室がどんな風に活用されるのか、住みながら最適な使い方が見えてくるでしょう」と話しています。

